



1 茨木版共創とは

◆「茨木版共創デザインブック」作成の目的

価値観の多様化が進み、変化の激しい現代において、**対話**や**プロセス**、**共感**を大切に**「共創」**が、これからのまちづくりの重要なポイントになると期待されている

でも「共創」ってよくわからない・・・

市が考える「共創のカタチ」や様々な事例を示すことでイメージを促し、**まち全体に共創を広げていく**ために作成

◆「茨木版共創」とは

これまでのまちづくり ⇒行政や専門家、経験や知識のある人たちを中心に、目の前の課題に取り組む『課題』が動かすまちづくり

これからのまちづくり ⇒行政、専門家はもちろん、「おもしろそう」と気軽に参加した人まで誰もが主役。共感した人たちも一緒に加わることで、新たな可能性が生まれるかもしれない『共感』が動かすまちづくり

『共感』は、共鳴するように次なる共創や新しい活動へと広がり、ひいては自己実現や日々の幸せ、豊かさの美感へと結びついていく。

2 共創に必要な要素

◆4つの「C」 茨木版共創の4つの要素



Communication ひらく

まずは対話に参加。そのためには、プロセスをひらいてみよう。大事なポイントは、「意見を言う」、「意見を聞く」ではなく、「一緒につくりあげていく」こと。



Collaboration 一緒に

スキルを持ち寄る足し算から、価値を生み出す掛け算。「適材適所」も「混ぜこぜ」もありだけど、「混ぜこぜ」のほうがおもしろいかも。



Cheerful 楽しい

きっかけは「課題」じゃなくて「やりたいこと」でもよし。なんなら誰かの「やりたい」に乗っかってみるのもあり。「楽しい」なら続け、「お客さん」から「自分ごと」に意識が変わっていくかも。



Challenge お試し

最初から完璧を目指さなくても大丈夫。まずは小さく試してみよう。そんな試行錯誤の中から新しいアイデアが生まれるかも。たくさん考えるのも大切だけど、ノリと勢いの「とりあえずの行動力」も大事。

◆2つの「大事なこと」 4つの要素をより深め、広げ、つなげる

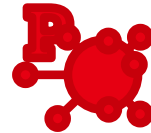


| | プロセス | Collaboration | Cheerful | Challenge |
|------|------------------------|-----------------------|----------------------|---------------------|
| プロセス | ひらかれた対話の場があるから途中参加しやすい | プロセスを共有することで信頼が育つ | 一緒に積み重ねることで | 試行錯誤の流れそのものが価値になる |
| 共感 | 共感があるから対話がひろがり、深まる | 共感し合う混ぜこぜから新たな価値が生まれる | 独りよがりではなく、みんなが楽しいになる | 共感があるから新しい挑戦に仲間が増える |

3 共創のカタチ

◆共創事業の4つのカタチ (目的や関わる人、組織などによって分類)

プロジェクト型



【特徴】

事業に様々な主体の参加を募り、一緒に進めるカタチ。参加者はチームというよりパートナー。

【すすめるコツ】

同じ方向に進むための「ゴール設定」と、参加者の「関わり代」を残すこと。余白があることで参加者の意欲があがる。

【事業例】 まちみレポーター・就農支援塾あぐりば

ミキシングビルド型



【特徴】

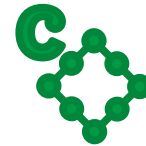
異なるジャンルの活動が交じり合うことで、既存の取り組みにはなかった新しい価値が生まれる(かもしれない)カタチ。

【すすめるコツ】

混じりそうにないジャンル同士の方が面白い展開につながることも。それぞれの「得意を重ねる」柔軟さと、ジャンルをつなぐ「間の人」が重要。

【事業例】 おにも見にクールアート展・芝のみ盆踊り

コンソーシアム型



【特徴】

各主体がリソースを持ち寄り、実行委員会のようなチームをつくって進めるカタチ。それぞれの「得意を活かす」スタイル。

【すすめるコツ】

ハブとなる事務局のファシリテーション、参加意義・目的の見える化が必要。取り組みのプロセスを共有し、参加者全員が自分ごとになることが大切。

【事業例】 竜王戦実行委員会・ICAW (IBARAKI CONTEMPORARY ART WEEKS)

オープンラボ型



【特徴】

テーマ設定された「場」をひらき、参加者みんなで考え、試し、つくり上げていくカタチ。そのプロセスのなかで参加者のやりたいことを実践したり、場を介したコミュニティが生まれることも。「場」から他の型の取り組みに派生することもある。

【すすめるコツ】

柔軟な発想や小さなお試しを許容するしくみや雰囲気づくりが大事。コーディネーターを置くことも有効。

【事業例】 みちくプロジェクト・IBALAB@広場

これまでの経過に加え、庁内ワークショップや事業担当者へのヒアリングをもとに「共創のカタチ」を分析



「茨木版共創」デザイン検討会議 (R7.8~R8.2)

事業担当者へのヒアリング



3 共創のカタチ

◆カタチは変化していく (例: おにくル整備のプロセス)



100人会議(プロジェクト型)

まずは市長と市民との対話の場をつくり意見交換した100人会議(プロジェクト型)からスタート



IBALAB@広場(オープンラボ型)

市民が自由に活動でき、様々な実験的な取り組みを行うIBALAB@広場を開館までの実践の場(オープンラボ型)としてひらいた



オープニングイベント実行委員会(コンソーシアム型)

おにくル開館時には、市民主体のオープニングイベント実行委員会(コンソーシアム型)を立ち上げ、みんなで開館をお祝いした

その時々状況や参加している主体によって、**合致するカタチ**を選択することが大切

4 共創事業の事例(レシピ)

茨木版共創の「4つの要素」がどの段階で意識されていたのか、プロセスと共感を大切に進めた経過がわかるように、**料理のレシピ**のようにまとめたもの

(レシピ1) オープンカンパニー (プロジェクト型からコンソーシアム型を目指している取り組み)

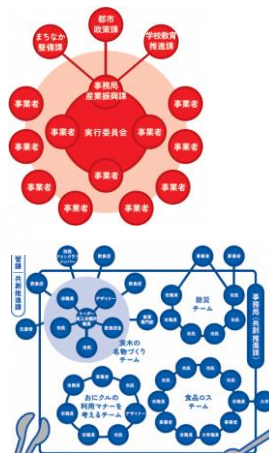
【概要】企業や工場の中を見学、体験してもらうことを通じて、企業の魅力やものづくりの楽しさを伝える取り組み。社会見学とは違い企業自らが主体となって公開するため、参加者の高い満足度だけでなく、企業側も社員のモチベーションにつながるなど、多面的な効果をあげている。

【冊子のなかでは】ニーズを把握するための事前ヒアリングから、参加企業の目的意識の醸成、企業同士のネットワークづくり、イベント開催後の振り返りなど、取り組みの詳細を解説。

(レシピ2) 茨木共創部 (オープンラボ型)

【概要】市民、大学、事業者、行政など様々な参加者が集い、おにくルを舞台にまちをよりよくする企画を考え実践するクラブ活動のような取り組み。4つのテーマでチームにわかれ、リサーチや視察なども含めた自主会を繰り返しながらお試し企画を検討、実施した。取り組みを進める中で事業者など新たな主体の参加も見られ、活動が充実している。

【冊子のなかでは】共創について検討する「場」をつくることから、参加者が「やりたいこと」を前提としたチームづくり、小さなお試しの開催など、取り組みの詳細を解説。



4 共創事業の事例(インタビュー)

共創の取り組みに参加した方々にインタビューを行い、**それぞれの立場での気づきや変化など**をまとめたもの

(インタビュー1) 茨木とりすき共創部 ~一人の“熱い”想いから始まる共創~

茨木の新たな名物として「とりのすき焼き」のレシピ開発や普及啓発に取り組む。

Key Word: 無理せず楽しむことを大切に / それぞれが得意なことを活かして参加 / 参加の立ち位置に変化



(インタビュー2) シニアディスコ ~「ええやん、やってみようや」の楽しさが連鎖する共創~

高齢者の居場所づくりを目的とした取り組み。来て楽しんでもらい、新鮮な刺激を得られるイベントにするため、普段は交わらなそうな異色のコラボで開催。

Key Word: 「ええやん、やってみようや」の雰囲気と共に / スタッフも一緒に楽しめる空間 / 顔の見える関係性



(インタビュー3) まちづくり検討会議 ~プロセスが価値になる地域の共創~

ワークショップ形式での話し合いを通じて、地域活動を住民と学生が共に進めていく取り組み。

Key Word: 立場が違うからこそ生まれる視点 / お互いの意見を尊重しながら形にしていこう過程 / 学生の学び



(インタビュー4) チャレンジいばらき補助金 ~「やってみよう」の種まき、挑戦の芽を育てる共創~

市民活動団体が実施する活動に対し、補助金の交付および伴走支援を行っている。

Key Word: 新たな価値やつながりが生まれた / 現場を肌で感じる機会に / 生の声が聴けたから、新たな展開に



5 おわりに

◆共創は「アウトプット」だけではない

取り組みの「プロセス」や生まれた「関係性」(アウトカム)にも多様な価値がある。

◆共創は人生をちょっと豊かにするかも

様々な事業の担当者に話を伺うなかで、立場や世代を超えた多様な参加によって、社会課題の解決だけでなく、**関わる一人ひとりの生活や人生がちょっと豊かになる**という変化もみえた。

◆ぜひ「茨木版共創デザインブック」を参考にしてください

茨木らしい共創の大切な要素として紹介した「4つのC」を参考にさせていただくことで、取り組みにはたくさんの「共感」が生まれ、そこから人それぞれ楽しく美しい「物語」が紡がれるかも。